

平成17～19年度 環境省廃棄物処理等科学研究費補助金研究

## 再生製品に対する環境安全評価手法の システム規格化に基づく安全品質レ ベルの合理的設定手法に関する研究

(K1838)

【代表】 (独) 国立環境研究所  
循環型社会形成推進・廃棄物研究センター  
大迫政浩

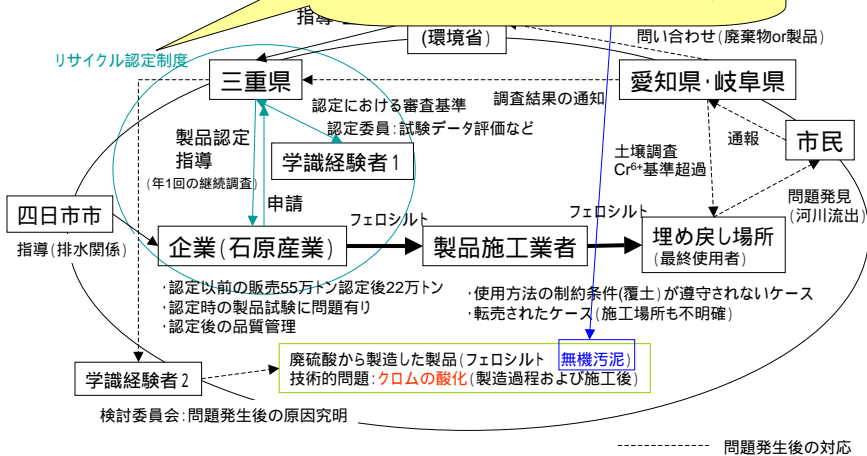
### 再生品の環境安全性に関する主要な問題点

- 廃棄物由来の再生品は安全性を過剰に疑われ、リサイクルが進まない。リスクコミュニケーションが進まない。
- 安全性を判断する基準・規格が不十分であり、現場(自治体等)で判断する能力もないため、不合理、非効率が多い。分野・製品ごとの数少ない規格・基準類も全体としての整合がない。
- 二次製品(再生品)よりも危ない一次製品があっても、あまり問題にされない。有償/逆有償、すなわち廃棄物か否かでも同様の例がみられる。

# フェロシルト問題の構造

問題事例の構造モデル(200)

全国33都道府県で導入。基準項目、基準値、評価方法はバラバラ。国からの統一的なガイドラインも示されていない。

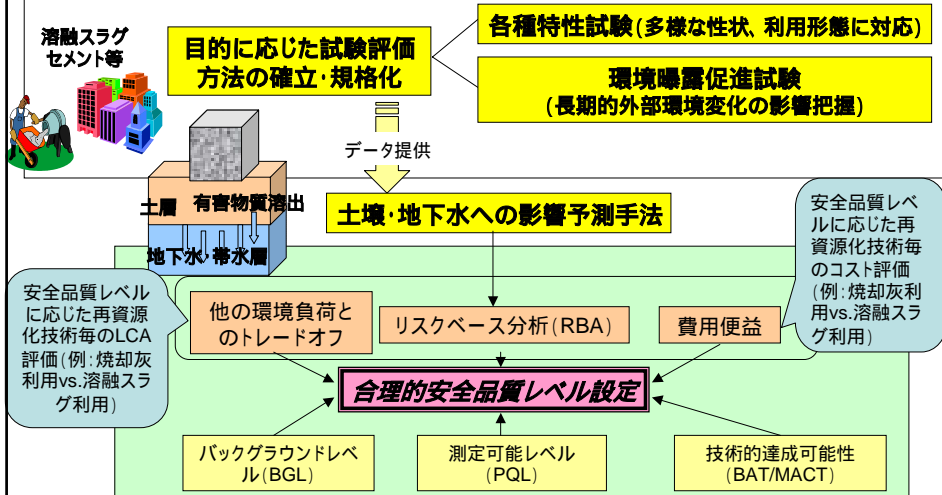


出典:宮脇健太郎(明星大)作成資料

# 研究の目的・意義・概要

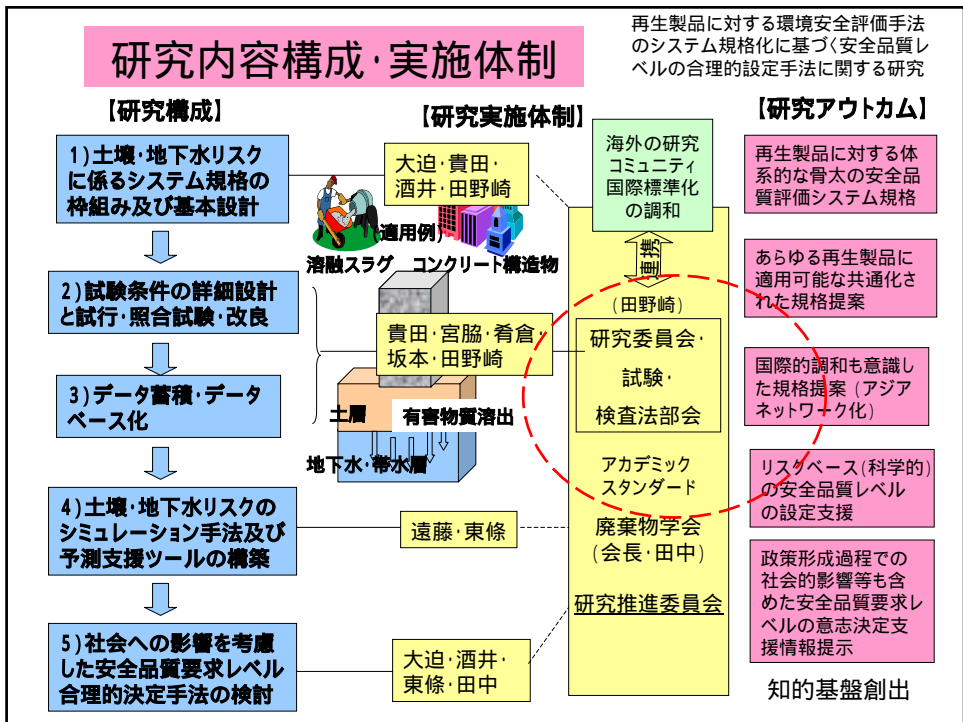
量的に多い建設資材系の再生製品を対象に、土壌・地下水への溶出リスクに焦点

再生製品の環境安全評価方法の体系的システム規格化

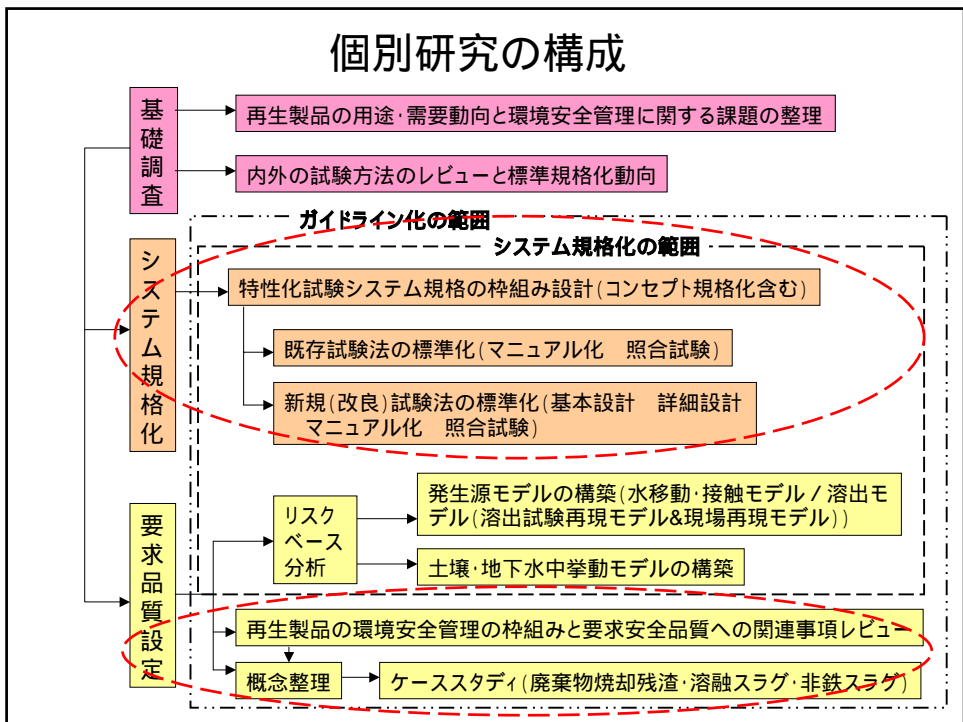


# 研究内容構成・実施体制

再生製品に対する環境安全評価手法のシステム規格化に基づく安全品質レベルの合理的設定手法に関する研究



## 個別研究の構成



# 溶融スラグのグリーン購入法 特定調達物品提案申請への成果活用

二酸化炭素排出量の評価結果(機能単位: 資材1t)

